新潟市教育委員会　学校支援課だより

Support

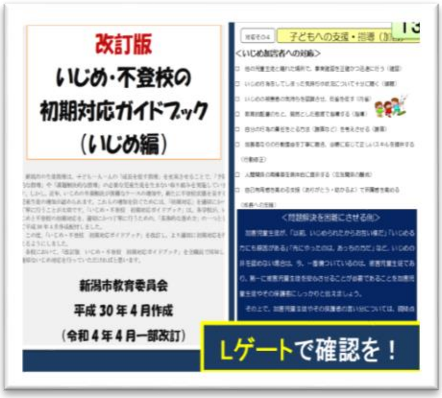
No,2
令和５年７月２１日
編集・発行
学校支援課　広報担当

http://www.city.niigata.lg.jp/kosodate/gakko/index.html

今年度の生徒指導の取組
「いじめ防止」、「不登校支援」
について紹介します！

Ⅰ　いじめ防止の取組

（１）いじめアンケートの確実な実施



いじめ未然防止策の１つとして、「いじめアンケート」（年三回以上）を、本市全体で取り組んでいます。アンケート実施後は、即日、確認をお願いします。いじめが発覚した際は、いじめミーティングを開催し、組織での早期対応を引き続き、お願いします。なお、いじめの程度は、校長先生が決定します。

（２）いじめ未然防止に向けた教育プログラムについて

①　本教育プログラムの趣旨

新潟市では、いじめの積極的な認知による、早期発見によって、いじめの1000人当たりの認知件数は、全国で最多となる一方で、適切な初期対応、対処によって、全国平均を上回る解消率となっています。これは、新潟市のいじめ重大事態絶無に向けた取組に先生方からご尽力いただいている成果であると捉えています。

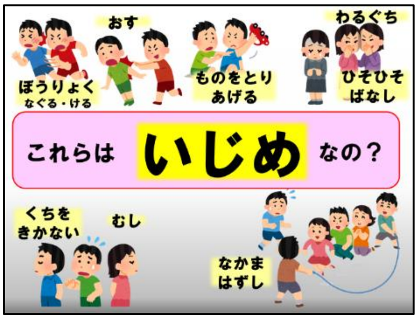
今後、新潟市が取り組むべきいじめ防止対策として、これまで行ってきたいじめ認知の高い感度を維持しながら、いじめ自体を減らす取組が必要であると考えています。そこで、令和５年度、新潟市では、小学校、中学校に、「いじめに関する知識理解の学習」と「心の教育道徳科の授業」をパッケージ化したいじめ未然防止に向けた教育プログラム「いじめに正面から向き合う学級活動（２）と道徳科の授業」を提示しました。

② 本教育プログラムの概要

1年に、1時間

ア いじめに正面から向き合う学級活動(2)の指導構想

法律や調査・研究結果を知識として示し、子どもにいじめについて正面から考えさせることで、**いじめ問題についての理解を深める授業を目指す指導構想**となっています。



イ いじめに正面から向き合う道徳科の指導構想

教材の問題場面から子供にいじめに係る問題を見出させ、「自分の経験を基に考える」「多面的・多角的に考える」といった思考を促すことで、**子どもがいじめについて正面から考える中で道徳的価値の理解を深める授業を目指す指導構想**となっています。

1学年に、4教材程度

ウ いじめに正面から向き合う学級活動(2)と道徳科の指導の関係

各学年部の初期段階で学級活動(2)の授業を行い、知識を伝えるとともに、いじめ問題に係る問題意識を高めます。その学年部の2年間で、様々ないじめに係る問題場面を教材とする道徳科の授業を設定し、主体的にいじめ問題について考えさせ、いじめ問題の解決に必要となる道徳的価値の理解を深めます。

★詳細は、令和5年5月26日（新教支262号「いじめ未然防止に向けた教育プログラム」活用について、または、右記QRコード内の説明動画をご確認ください。

学校運営マネジメント研修

説明動画（約10.分）

データ（プレゼン資料や指導案）はすべてこちらに格納 ↓
C4thの書庫>閲覧>生徒指導>いじめ未然防止に向けた教育プログラム

③ 実施した学校の先生方の声（先行実施校アンケートより）

○いじめの4層構造（傍観者や観衆も加害者）について学活の時間で事前に知識として教えたことで、道徳教材に潜むいじめを、問題として捉える児童が増えた気がする。

○いじめを知識として教えることは非常に重要だと思う。

○指導の際のプレゼンに台詞まであるので、だれにでも取り組める。

○道徳については、どのみち授業をすることになるので、このプログラムの指導案を今後も活用する。

学校一体となった取組をお願いします！

2 これからの不登校支援

これまでの不登校支援としての、「未然防止」、「学校復帰のための支援」はもちろん大切ですが・・・。

これまで目指してきたこと

未然防止　初期対応　課題解決

→ 学校復帰への支援

「さらに！」という考え方で

「登校する」という結果のみを目標としない

→ **社会的自立**への支援

場合によっては,
様々な関係機関等を活用し社会的自立への支援を行う。
フリースクルールなどの民間施設等と積極的に連携し，相互に協力・補完することの意義は大きい。

新潟市フリースクール等連携協議会（R2.11発足）

フリースクール等と学校、教育関係機関との連携を図りながら、不登校児童生徒の社会的自立を支援する目的で設置されました。
施設の新規加盟について協議したり、よりよい連携の在り方について協議したりします。

「新潟市教育ビジョン第4期実施計画」指標について

これまでの指標「不登校発生率」から変更！

（1）初期対応の成果としての指標

「不登校傾向児童生徒の解消率」

$$解消率（\%）= \frac{（不登校傾向が解消した児童生徒数）}{（不登校傾向児童生徒数）} \times 100$$

欠席日数はわずかでも、登校しぶりなどの心配が見られる子どもをいち早く見つけ、支援していただいています。さらに、その中には丁寧で継続的な支援から、「解消」となった子どもたちもいます。そこで、初期対応の成果としての指標としました。

（2）課題解決的支援の成果としての指標

「不登校児童生徒のうち学校内外の機関から相談・指導等を受けた割合」

$$相談・指導等を受けた割合（\%）= \frac{（相談・指導等を受けた不登校児童生徒数）}{（不登校児童生徒数）} \times 100$$

スクールカウンセラー、教育相談センター、訪問相談員、フリースクール等、外部とのかかわりを作ることが、社会的自立に向かう力を伸ばします。そこで、課題解決的支援の成果としての指標としました。

学校復帰に向けた支援シートの活用　～6つの視点～

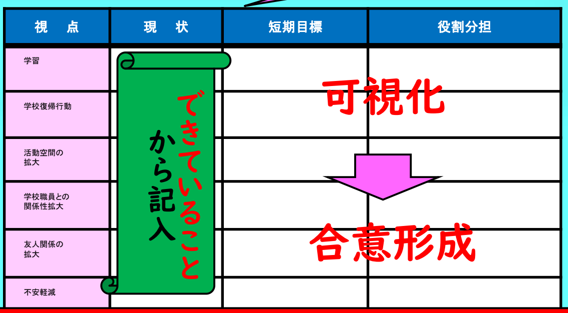
C4th書庫に格納済

<校内支援会議や保護者との面談で活用>

☆ 不登校の状態が継続・長期化し、学校でも家庭でも、対応に行き詰まった段階はもちろん、初期段階から積極的に活用する。

⇒ 現状を捉え直し、短期目標の設定と役割分担

※ 校内の不登校対策委員会で活用！
※ 可視化し、保護者と共有のうえ、当日及び次回の面談資料としても活用



「児童生徒理解・教育支援シート」とリンクさせ、有効活用する。